

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
藤本 哲史

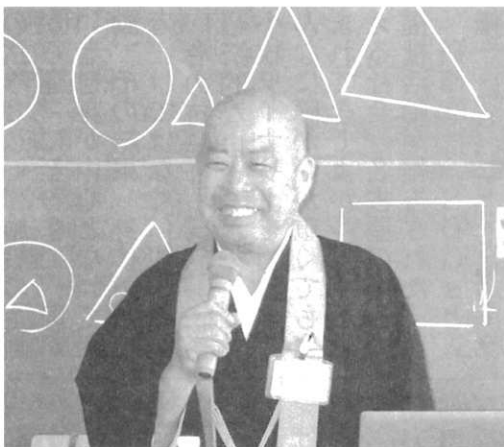
高野山で女性部

1泊研修会

女性部一泊研修会を6月15、16日高野山でおこない13支部29人が参加した。



フィールドワークの事前学習で木下浩良先生から説明をうけた



佐々木基文・高野山社会人権局長の歌が披露された

1日目は、高野山大学の教室で、NHKの「プラタモリ」に出演されたことのある木下浩良・高野山大学総合学術機構課長より、明日のフィールドワークの事前学習を兼ねた「聖地高野山と弘法大使―女人禁制をキーワードにして」と題した講演をしていただいた。

信仰宗教による女人禁制の考え、聖地高野の歴史と結界と女人禁制全廃までの経緯などが詳しく解説され、明日のフィールドワークのコースについても、画像をみながら説明があった。つぎに、佐々木基文・高野山社会人権局長より「高野山真言宗人権問題の取り組み」について、

世の中の仕組みと差別の構造を、信仰宗教による女人禁制の考え、聖地高野の歴史と結界と女人禁制全廃までの経緯などが詳しく解説され、明日のフィールドワークのコースについても、画像をみながら説明があった。つぎに、佐々木基文・高野山社会人権局長より「高野山真言宗人権問題の取り組み」について、



大門



女人堂

ベッドを家具屋に注文するといった配慮をしていた。宿坊で精進料理をいただき、夜には、藤本眞利子・県議会議員の県政報告と各支部の女性部活動の状況や今日の講義の内容などについて話し合い交流を深めた。



三昧聖の墓



蛇柳とよばれる刑場跡

2日目は、木下先生の案内のもと、女人堂や大門、大伽藍、奥の院を約3時間フィールドワークおこなった。不動坂から高野山に入っていくが、女性はその手前の女人堂までしか入れなかった。

さらに、三昧聖という死者の埋葬や墓の管理などをしてきた被差別民の墓石や禿法師と呼ばれるハンセン病患者の墓、蛇柳と呼ばれる刑場跡では、高野山では血をみることはゆるがせにせず生き埋めにしていたことなど、前日の講義で事前学習した場所を実際にみて、さらにその場で木下先生の解説を聞くことでより高野山の歴史を学習することができた。



県政報告会のようす

頑健

沖縄県那覇市に「対馬丸記念館」(2004年開館)が建てられていたが、8月23日に対馬丸事件から75年目を迎えた。当時、太平洋戦争の戦況は、2カ月前のサイパン島の玉砕で厳しくなっていた。そこで政府は、沖縄での決戦に備え民間人や学童の強制的な疎開を開始した。そして、21日の夕方、台風による暴風雨のなか子どもや民間人ら約1,800人近くを乗せ対馬丸は那覇を出港した。しかし、奄美大島近くの海域で米潜水艦に撃沈されてしまい、多くの子どもが犠牲になり、全生存者はわずか250人あまりだった。▼政府は、事件のかん口令をひいた。この種の船舶は、船体に赤十字を付けられ、攻撃対象ではないのが通常だ。だが対馬丸には赤十字もなく、陸軍が兵員輸送船として運用していたなど、多くの問題があった。また、生存率は子ども7%、一般人14%、軍人48%、船員72%ということからも状況がうかがえる。▼いま、戦争を知らない世代が80%を超え、平然と戦争を口にする政治家や無関心という人が増加してきている。しかし、今から70数年前に戦争があり、多くの生命が奪われたというのは紛れもない事実だ。その記憶や記録を次の世代につないでいくことが、今を生きる私たちの役割だ。